

演題 4 9

昨年度本校3年生における学習実績

きむらやすし
木村 泰 浅井晶子 山田洋之 谷口智也 山藤賢
(昭和医療技術専門学校)

【はじめに】本校では、これまでも、人間性豊かな医療人育成のための取り組みを本学会で報告してきた。「全員卒業・全員合格」というスローガンも、学生間の心の絆を高める教育方針の一環であり、昨年度の3年生も全員で目標としてきた。一昨年度の3年生の結果と取り組みは昨年度の本学会でも報告したところであるが、昨年度の3年生においては、全国模試(医歯薬出版)にて全国1位と2位(受験者数3232名中)の学生が本校の学生であり、国家試験の結果のみではなく、その学習背景も含めて報告する。

【目的】本校では、全員卒業・全員合格を目標に、成績下位者を切り捨てるのではなく、皆で助け合って国家試験合格を目指すことにより、その教育効果はより一層高まると考えている。その中で、成績下位者の底上げだけではなく、近年成績上位者もさらなる成績の伸びをみせており、その結果を検証し、興味ある知見を報告する。

【方法】昨年度、第3学年56名を対象とする。またその中でも、全国模試で一位だった学生の入学から卒業までの経緯についても報告し、本校の学習実績を考察する。

【結果】卒業判定においては、一名が体調不良が原因となって合格点に達せず、本年度は残念ながら全員での卒業とはならなかった。国家試験においては、一名が不合格であり、合格率は98.2%、さらに過去8年間の平均合格率も98.8%であった。

【考察】国家試験の合格率全国平均は67%と一昨年より低くなった。本年も全員合格を目指し、学年が丸一となり望み、成績下位者も上位者に引っ張り上げられながら健闘した。その中で、特筆すべきことの一つとして、成績上位者も成績を伸ばしていた。全国模試で一位だった学生は、中学生時代に成績が悪く、高校は希望とは異なり、夜間定時制の工業高校に通っていた。大学受験も望めず、臨床検査技師に憧れて本校に入学した。入学時は目立った成績はおさめていなかったが、目標を設定し、勉強の楽しさに目覚め、徐々に成績を伸ばし、3年時には、全国模試で一位となった。このような成績上位者の伸びを示す事例が近年多くなっており、学校としての在り方が影響しているものと考えられる。本校では、国家試験の受験に関して、学生全員の絆で乗り越える事を理念としている。成績上位者も自分のことだけではなく、皆に勉強を教えたり、成績下位者にも個別に勉強を教えている。個人主義を良しとしない校風のなか、そのような姿勢が、結果として、クラス全体の底上げとともに、成績上位者自身の成績も伸ばすことに繋がり、個人としても全国トップの実績を残すことができたのではないかと考えている。今後も臨床検査技師に必要とされる能力として、技能技術者として、技術の習得は当たり前のことであるが、昨今では、ピペットの操作もできない学生がいたり、臨地実習先の先生方からもお話を伺うこともある。本校では現場力の向上を第一に考え、3年生では6ヶ月の臨地実習をしっかりと行うことを第一の目的としている。その上での、国家試験の受験対策であり、結果としての成績の向上である。臨床検査技師として、そして医療人として、本校が考える一番大切なことは、相手を思いやることの出来るやさしい心を持つことであり、そのことの追求が、臨地実習や、国家試験成績にも反映されると信じて教育を行っている。今後も、教育技術を模索・検討を繰り返し、さらなる向上を目指していきたい。